

「2017函館マラソン」準備状況（第二弾）

～ はじめに ～

函館マラソン事務局です。

さて、昨年からフル・ハーフ同時開催のスタイルで実施している「函館マラソン」ですが、その準備状況や反省することしきりの開催状況などについて、これまで

- ・ 昨年4月から6月末まで：2016函館マラソン準備状況
- ・ 昨年8月から10月上旬まで：2016函館マラソン開催状況
- ・ 昨年11月から本年1月中旬まで：2017函館マラソン準備状況

というフレームで、都合3部にわたり各20回、せっせと書き込んでまいりました。

この反響として、コアなファン？の方からメールやお電話で、あるいは直接ご訪問をいただいたりして「今回の内容、よかったわ」などと激励のお言葉を頂戴する場面も多く、書き手の方としては、正直、かなり喜んでいるのであります。

しかしながら長く書き込んできた「2017函館マラソン準備状況」が、この1月18日に結びを迎えたこともあって、ここで筆を置き、今後は17大会開催に向けて脇目もふらずにぐりぐりと諸準備を進めていくぞ！と、決意も新たに昨今は取り組んでいたのですが…ただ、実は少々困ったことがありまして。

日々、準備を進めている中で、本当に多くの方々との密なコミュニケーションが展開されていくわけですが…そうした過程で（不思議なことに）、げに楽しくもダイナミックな「ネタ」が私の手元に続々と降ってまいります。これには大いに触発されてしまいます。「ネタ」を拡散したい、即ち「書きたい」という欲求が湧いてくるのです。

ということで…割とあっさりともた筆を執りますね。それによくよく考えると、皆様にお伝えしなければならないことはまだ沢山ありまして、例えば…気になる「参加記念品」のことなど。新たな取り組みとしてフェイスブックも始めましたので、折角ですからこの場とフェイスブックを連動させながら皆様への情報発信の充実に努めてまいります。

何れにせよ…筆致はいつもながらの冗長スタイルが変わるべくもない有様ですが、ランナーの皆様におかれましてはマラソンシーズン真っ只中のこの時期から、シーズンも終盤を迎える初夏の「2017函館マラソン」開催のその日まで、引き続き日頃の練習の「脚休め」の場としてこの場を楽しみいただきたく、よろしく願いいたします。

通算第4部目となる「2017函館マラソン準備状況（第二弾）」、スタートです！

～第1回 エントリーはじまりますよ！（バレンタインデーの直前からです）～

既に皆様ご承知のこととは存じますが…バレンタインデーの3時間前、2月13日の午後9時から函館マラソンのエントリーがはじまります！よろしく願いいたします。

また、エントリー開始のお知らせも含め絶賛展開中のフェイスブックキャンペーンですが、本当に多くの方からご応募を賜り、そしてあたたかいメッセージを頂戴しております。我ら関係者一同、アツいものをひしひしと感じております。勢い準備の方にも力がいってまいります！

さて。

昨年大会は、あのサロマ、かの有名な「サロマ湖 100km ウルトマラソン」と開催日が重なってしまいましたが、（正直に申し上げて）実行委員会内での「サロマのお客さんはサロマに行くわね。だってあの有名なサロマだものうんうん」、「仮に1週間日程を変えても100キロ走って次の週にフルは走れないわね」といった議論？や、函館マラソンのスタート・フィニッシュ地点となる千代台公園の利用調整などを踏まえたうえで、6月末の、暴風吹きすさぶ「あの日」をわざわざピンポイントで選択したのであります（涙）。

17大会は、先の「17大会準備状況」（※第1弾）の第4回「（発表済みですが…）開催日程について」にて開催日決定に至る経過をお知らせしておりましたとおり、高校野球地区予選との日程調整などを経て7月2日に決定、即ちサロマの1週間後です。

「でもまあサロマの1週間後になったからって、サロマの参加者はウチには来ないよ」、「そんな超人、いるわけないっしょ、ふふ」

それが…世の中には超人って居るんですね。

FBキャンペーンコメント：「サロマ明けになります、楽しんで走りたいと思います」。
くだもの社長：「オレのともだち、サロマと重なってない！よかった～って言ってるよ」。
準備状況ご愛読者様：「サロマと被らないとなると申し込みが大変になりそうだなあ」。

…ということで皆様、繰り返しになりますが、

2月13日（月）午後9時 エントリー開始です！

～ 第2回 参加記念品は？ ～

参加記念品…皆さん気になりますね。でもまあここをご覧のあなた様が気になる以上の勢いで、我々、ずっとそのことを気にしているのであります。

皆さんに喜んでいただける品物を選択したい。「ランネット」のアンケート（※大会レポート）を見ると、昨年のリュックとキャップについては「工夫を感じる参加賞」の項目で95ポイントという高評価をいただいておりますので、あまり変なことはできません。それに色々なことがあったにせよ16大会の総合評価が低いレベルにとどまっている我が函館マラソン。点数を貪欲に「取りに行く」というガッツも必要です。

当然のこととして参加記念品の充実には多くの費用が必要ですが、その辺はバランス感覚を研ぎ澄ませ、支出の精査と重点項目への集中投資、即ち「それ欲しい～！」と多くの方に言っていただけるような品を少し無理してでも選びたいと考えています。

で、逡巡して辿り着いたのが「BUFF」。手にとってみるとこれ、使い勝手いいですね。色んなパターンで着用できるし。でもネットで調べると…結構いいお値段です。



それにこの品、少なくとも世のおじさん代表を自負する私は、サンプルを手にするまで存在すら知りませんでした。「これ、なに？」、「BUFFって何て読むの？」、「アクセントは前後どちらに付くの？ バフ？ バフツ？ バアフウ？ …??？」

このように、私にとっては一般化されていない存在でしたが、それが如何に良いものであるのかということを教えてくれたのが、自転車乗りの私の同級生たち。

「おまえBUFFって知ってるか」→「おう。あれ、いいんだわ」

「ホントか、知ったかぶりだろ？」→「なんもだスペインのアレだろ、でも高いよ」

→「なに、マラソンの記念品？たのむ…くれ！」

「ダメだ、マラソンに出ろ！ふふ」←

ま、何れにしてもデザインが重要ですよ。その辺も含めオフィシャルスポンサーのミズノさんと相談してまいります。それと、今年も記念品は2品に？（BUFF+αの意。ミズノさん頑張ってます！詳しくはFBの方もご覧ください）

～ 第3回 (緊急報告) エントリー状況について ～

昨年の今頃のこと。我々スタッフの心の中には常に強迫観念的なものが宿ってましたね。何がって？ズバリ定員に達するの否かの1点についてです。フルマラソンとしては新参加者ですからPRには全力尽くしましたが、なにせハーフ時代と比べて定員が単純に倍増するわけですから気が気じゃありません。

その昨年大会、結果的には47全ての都道府県からエントリーをいただき、フルは定員到達、ハーフも最終的には97%に達したのであります。実績もないマラソンを支えていただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。

で、1回の開催実績を経て2回目を迎える今年は、そうした呪縛から解放されたのか？

函館マラソンに関係する多くの方が、この定員到達について語るとき、「もう2年目だものすぐ埋まるわ」などと太鼓判を押されるのですが、少なくとも私は、かなりの勢いで心配しておりました。何故ならば、

- ・ 昨年は北海道新幹線開業の「追い風」が吹いていた
→ 今年もその風は吹いているが、ピークは越した
- ・ 昨年大会はフルマラソンとしては「初」開催。皆、初モノ好き
→ ご祝儀相場は過ぎた

という背景的な問題があること。加えて昨年大会は、上記のとおり新幹線開業という「追い風」を受けておりましたが、当日は例え話ではなく本当に「強風」を受けてしまい、それに的確に対処できなかった我々の経験値不足も重なって…だから、かなりの勢いで心配していたのであります。

このような状況を踏まえ、では今年はどうのような感じなのか？エントリー1日目(14日17時現在)の中間概要を以下のとおり纏めましたのでご覧ください。

・ フルマラソン	定員達成率	65%	
・ ハーフマラソン	定員達成率	40%	
・ 合計	定員達成率	53%	(対前年で95%!!)

…要するに順調です。初回の「追い風」を受けた昨年並みに推移しておりホッとしております(今年はハーフも定員に達する勢いです!)。皆様本当にありがとうございました。ただし…まだ間に合います!

ご案内: 宿泊施設の関係でご心配をおかけしております。函館マラソンの宿泊を斡旋しているJTB北海道函館支店からは、「今後、新たな施設の追加など宿泊情報を更新していく」との連絡を受けておりますので、同支店のサイトを逐次ご確認くださいませようよろしくお願いいたします。

～ 第4回 (2/16 午前 11:30 公開・緊急報告) 宿泊施設について ～

遠方からお越しの方にとって、宿泊施設の確保は重要です。このため函館マラソンの公式スポンサー・JTB北海道社様には、昨年引き続き本年もランナーの皆様の宿泊をサポートいただいております。

同社では、フル化2年目となる17大会は、昨年以上に宿泊需要が高まるものと想定し、その備えを「粛々と進めていた」とのことです。また、昨年は大会直前までやりくりし、苦慮したものの「最終的にはご要望をいただいた方の宿泊予約は、ほぼお手伝いできた」とのことです。今大会も「昨年の宿泊率を踏まえ、昨年以上の予約に堪えられるよう対応している」とお聞きしておりました。

しかし…今年は昨年以上の宿泊要望があり、正直に申し上げて、同社の宿泊サイトを開放した直後から「想定以上のお申し込みをいただいた」とのことでありました。

この要因としては、

- ・ 昨年の大会は、3月14日の申し込み開始→6月26日大会開催（その間3か月）
- ・ 今年の大会は、2月13日の申し込み開始→7月2日大会開催（その間5か月）

この2か月の差により、「(まだ早いので) 予約解禁前」という施設が多く、結果、2月中旬のこの時期に、一般向けに予約がリリースされている施設が少ないことから、結果、当社サイトに集中したことなどが考えられる…とのことでありました。

このような状況に、同社は以下の通り対応します。

【宿泊予約サイトについて】 <https://amarys-jtb.jp/2017hakodatemarathon/>

- ①ツインのシングルユース転換 (2/15 掲載済)
- ②新規の宿泊情報を追加 (2/16 午後 1 時以降「順次」掲載予定)
- ③大部屋プランの追加 (現在、市内宿泊施設と交渉中)

お手数をおかけいたしますが、当社の函館マラソン宿泊予約webサイトを逐次ご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【電話でのご相談も承ります】 JTB北海道函館支店 電話番号 0138-56-1711

上記②の一環として、webサイトに掲示していない宿泊施設についても若干ながら、ご案内できるお宿があります (※2/16 午前 11 時現在)。詳しくは電話でお気軽にお問い合わせください。

皆様には大変ご面倒をおかけしておりますが、上記情報のご確認方、よろしくお願いいたします。

～ 第5回 「メロン王子」 ～

更新がおろそかになっておりますが、遊んでいるわけではありませんよ…ふふ。

さて、17大会準備状況の第18回、夕張メロン編で詳述していたとおり、我々、17大会の夕張メロンなどの協賛（無償提供）を逡巡する「くだもの社長」に対し、大阪マラソンの会場で初対面の氏に協賛の継続を促す奇跡の一言「くだもの社長さんですか？」を発した関西在住の方（以下単に「メロン王子」という。）を探しておりました。

「メロン王子」は、察するに「準備状況」などをくまなくご覧になっているのは明白であり、必ずや我々の問いかけに反応があるものと確信しておりました。そして「その日」はあっさりとやってきました。1月から始めた当マラソンのフェイスブック、そこに投稿したメロン関連記事に、1月15日（日）の早朝、次のコメントが付いたのです。

＞第18回記事 楽しく拝読しました。大阪マラソンでフルーツ社長さんに声をおかけしたのは僕です。前回大会ではタイムを狙っていましたが、フードは全く摂らずに走りました。今年の大会は完食を目指します。

…押せるものなら「いいね」を100回押しそうな勢いで喜んだ私、すぐさまコメントを返そうと思いましたが…場の運営ポリシーを「※FB コメントやメッセージには返信をいたしませんのでご了承ください」と熟慮のうえ定めた以上、軽々に返信はできません。そこで苦肉の策として「メロン王子」にメッセージでお礼を申し上げますと…

＞返信ありがとうございます。前回大会前に大会HPのブログをととても楽しく読ませていただきました。いかにおもてなしをするか、いかに費用をかけずに函館を満喫してもらうかを巧みな文章でまとめられており、大会には参加しない家内にプリントアウトして読ませました。ブログの中で取り分け印象に残ったのは豪気にも高価な夕張メロンを提供されたフルーツ社長の逸話とイラストでした。

＞函館マラソンから4ヶ月後の大阪マラソンの朝のこと。荷物を預け終わってスタートラインに向かって歩いている時、前からイラストそのままのランナーさんが歩いて来られた時には思わずビックリして足が止まりました。もちろん迷うことなく声をかけて、おはなしをさせていただきました。まさかこの時の僕の行動が次回の大会へのフルーツ提供を決定付けたとは驚きです。

＞函館マラソンのコースは正直アップダウンが多くて、キツイコースでしたが沿道からの熱い声援とおもてなしの溢れた大会でした。もちろん今年も参加します。大会準備何かと大変ですが楽しみにしております。大成功を祈っております。

という返信を「メロン王子」からすぐさま頂戴し（あわせてメッセージの引用についてもご許可をいただきました）、飛び上がりましたね物理的に。

ただ「メロン王子」、いや川端さん！このようなやりとりを通じて私、何かしらずっと違和感を覚えておりました。何かが違う…何だろう。

あ、「フルーツ社長」じゃなくて「くだもの社長」ですから！（←ココ重要）

～ 第6回 なるか？函マラバージョン「丸缶羊かん」土産商品化（中間報告） ～

昨年3月のこと。アンケートなどを通じて「羊かん」は必ずやランナーに喜ばれるフードになると確信した我々は、羊かんといえば道南は江差町の五勝手屋本舗さんだわねと、同社への無謀な直接アタックを敢行したのであります…「羊かんください」と。

ただ、我々の「工作」目標は、同社が誇る「丸缶ようかん」のスライス4千個をご提供いただくこと…この辺はバックナンバー（16準備 第11回、16開催 第10）を再読いただければと思いますが…要するに「食べる・食べない」の歩掛かりを5割と設定し、パクっとひとクチサイズの羊羹を4千個用意できれば、まずは希望するランナー全員に提供できると考えたのでありますが…これまでの同社との打ち合わせ状況を時系列でお知らせいたしますと、

（16年3月 羊かん専務）

- ・羊かんを4千個に切り分けるのって大変でして…
- ・だから4千個、切らない版（※1本まるごとの意）で提供しますがどうでしょう？
- ・それじゃ4千本になる？協賛が百万円近い？…そうですけど何か？

（16年5月 羊かん専務）

- ・折角だから函館マラソンポスター柄の特製パッケージ版で提供しますね

（16年6月 ※大会直前 羊かん専務）

- ・「1本じゃ多すぎる」という方が居そうだから追加で「通好み（※丸缶の上のシャリシャリした部分をカットした商品）」を2枚×4千名分用意しますね
- ・社員6名体制で第7エイドを手伝いたいのですが、よろしいですか？

（16年7月 ※大会後 社長）

- ・来年も協賛は惜しまないつもりですよ
- ・何？ポスターにロゴが載るぐらいの協賛内容だったから来年はロゴスポンサーに？だめだめ江差の我々が出過ぎたまねはしたくないから。新聞とかで色々と宣伝してもらったし、本当にそれで十分。感謝してますよ

（※新情報：17年2月 羊かん専務）

- ・ランナーの評判良かった？「おいしい」、「生き返った」って？嬉しいですね
- ・え？エイドで配った函マラバージョンの「丸缶羊かん」を土産にとって声が多い？それ社長がダメって言うと思います。販売しちゃうと営利目的みたくなるから
- ・我々は純粹に函館マラソンのお手伝いをしたいだけ。おもてなしの気持ちで勝手にやっただけですから。だから販売はダメです
- ・それはともかく今年は何をやるかな？何かもっと新しいことがやりたいんですけど…何をやればランナーの方々、喜んでくれますかね？

ということで我々も、そして多くのランナーの皆様も望む函マラバージョン「丸缶羊かん」の土産商品化ですが…現状、難航しております。引き続き頑張ります！

～ 第7回 3月10日（金）正午 300室分の宿泊情報を追加
／宿泊施設不足に関するお詫びと状況報告 ～

函館マラソンの開催まであと4か月を切るところとなりました。

宿泊施設の予約確保が難しい状況が続いており、皆様には大変ご心配をおかけしておりますが、明日（3月10日）正午より、函館マラソン公式スポンサー・JTB北海道社が運営する函館マラソン宿泊サイトや同函館支店への直接のお電話などを通じて、

- ①宿泊サイト上でシングル・ツインルームなどを中心に約200室の情報追加
- ②同支店への直接電話（0138-56-1711）にてご紹介できる情報を約100件追加
- ③東京発着の函館マラソンツアー販売開始

という3つの情報を、皆様にお伝えできる運びとなりました。

このたびの宿泊施設不足の現象は、函館マラソンの公式 Facebook をはじめ、ツイッターなどでも数多くの発言を頂戴するに至りました。そして多くの皆様に悲しい気持ちにさせてしまいました。

また、実現象としてランネットの入金期限を越えてキャンセルとなった方の人数は、当初の1週間分だけでも300名を超えました。これは、楽しみにしていた函館マラソンをやむなく放棄せざるを得なかったという方を、数百名規模で産みだし続けているということに他なりません。

本当に申し訳ありませんでした。

このような中、本日（3月9日）段階の2017函館マラソンのエントリーは、8千名の定員に対し、7千名を超えるところとなりました。心よりの感謝を申し上げます。

しかしながらマラソン大会の開催には、スポンサー各社様からの協賛金と、行政からの補助金、そして皆様から頂戴するエントリー費の3つを「確保」する必要があります。

このため実行委員会といたしましては、今後、お一方でも多くのご参加をいただきながら、残すところの900余名エントリー枠の確保、即ち「定員達成」を目指してまいりますので、エントリーを躊躇されている方や、そのような方をご存知の方で既にエントリー済みの方におかれましては、このたびの宿泊情報の追加などを契機に、ぜひとも函館マラソンへのご参加を賜りますよう、皆様どうぞお誘い合わせのうえ（※くどいですがね…でも必死なものですから…）、何卒よろしく願いいたします。

■宿泊等連絡先 JTB北海道函館支店 電話 0138-56-1711（平日 9:30-17:30）

・函館マラソン宿泊サイト：<https://amarys-jtb.jp/2017hakodatemarathon/>

～ 第8回 函館ならではの「新」フード決定！ ～

折しも3月14日のホワイトデーのお昼過ぎに起こったこと。何故か仕事中の私の脳内に「ホワイトデーならホワイトチョコよ」というささやきが聞こえてきたのです。

そうだよホワイトチョコだよなうんうん…あれ、オレ何いってんだろ？それにクッキーだよね？…でもマラソンでチョコを出せば栄養補給になっていいよね。あれ？そういえば湯の川の修道院にホワイトチョコなかったっけ？（ネットで調べると）…ある！

あれ、これ食べたことある！「おいしい」の記憶があるもの。でもいつ食べたんだっけ？ああ、観光部局に居た頃だから10年前か…そう思った瞬間、「私たちは函館市民。だから市民として函館のためになることを何かしたい」という修道院長から当時いただいたお言葉が、なぜかしら蘇ってきた。短絡的な私は、これは何かのお告げではないかと感じ、すぐさま第4エイド(湯の川)での新フード提供構想をまとめ修道院に電話した。

応答いただいたのは当時お世話になったシスター。今、自分はマラソンを担当していること、函館を疾走するランナーに函館らしい補給食を提供したいこと、そこで思いついたのが修道院のホワイトチョコであること、だから少し話をきいて欲しい…と。

シスターは「懐かしいですね」、「なるほどホワイトチョコ…どうぞお越してください」と。

そしてすぐに修道院長と件のシスターとの面会が叶った。私がお願いしたのは次の2点。

- 1 1枚15ピースに分割できる修道院のホワイトチョコを400枚、マラソン用に（若干お安くしていただいで…）販売いただけないか？
- 2 チョコを配る場所の裏手から、ランナーに微笑みと祝福をいただけないか？

修道院長からのお答えは…「囲いの中で生活する私たちの仕事は人々と一緒に修道院の囲いの中に留まることです。ですからコースの脇に出向くことはできません」、「でも囲いの中でしかできないことがあります。それは祈ること」、「チョコレートは全て『提供』させていただきます。そしてその一枚一粒毎に皆さんへの祈りを込めて作らせていただきます」、「全国からお集まりいただく皆さんが、事故なく無事に思いを遂げられるよう、マラソン開催日の7月2日にはマラソンの成功のためにミサを捧げ、ランナーの皆様には神様からの祝福と恵みを願いましょうね。」（※私、涙目）

また、「修道院にお越し頂けますと、神様の祝福とマリア様のご保護の恵みがありますよ。走る前でも、走った後でも、是非お立ち寄りください。お待ちしております。」というお言葉も頂戴しております。皆様ぜひ！



トラピスチヌ
ホワイト ミルク チョコレート

～ 第9回 「がごめ汁」開発状況（その1） ～

前回の聖なるお話からは一転しますが…今回は、ゴール後「全員」に提供できるフードの創出に向けて取り組む旦那衆の力強い姿を、シリーズで紹介させていただきますね。

さて昨年の10月頃のこと。17大会の「おもてなし広場」での振る舞いメニューをどうしようかと悩む私に対し、旭川市の強者ランナーYさんから「レース後は塩分補給が重要。だからふるまいは味噌汁が最高！」というアドバイスをいただき、「お、そりゃいいわね」、「それで決定！」と喜び勇んだのでありますが…ではどのようにすれば8千人もの方に味噌汁を提供できるのか？それを考えると…ちょっと考え込みました。

一杯分の分量はどうするのか？／シュツとした紙コップで提供するのか？どんぶりのなプラカップか？／8千人に提供するためには、提供窓口を何ライン確保する必要があるのか？／寸胴の大きさは？それを何個用意するのか？／現場で作るのか？どこかで作ったものを持ち込むのか？／外注するのか？そもそも受け手がいるのか？／必要な機材は？スタッフ数は？味付けは？／皆に喜んでいただける「函館らしい」具材は？（7月アタマにそれが確保できるか）／費用は？どこかで協賛してくれるアテはないか？

悩む私に救いの手を差し伸べてくれたのは、日頃お世話になっている老舗酒店の社長氏。

「なんも、オレなんか相撲の函館巡業の時とか、何回も炊き出しやったことあるっての」、「こういうのはあまり深く考えなくてもいいんだって。チャッチャとつくれるだろ味噌汁8千人分ぐらい（チャンコ出す方が大変だって）」

「まずね、最高に旨い味噌汁を作ることだけを考えるんだわ」

「味のキメ手となる具は…函館だもの『がごめ昆布』しかないわ」

※がごめ昆布：主に函館東海岸に生育する希少価値の高い海藻。葉一面に籠の目のような複雑な凹凸模様を持つことから「がごめ」と呼ばれるようになった。強い粘りのある独特な食感と豊かな風味が特徴 要はこんな感じですよ



「味噌はさ、北海道だもの白味噌ね。料亭で出すような高いやつ使わないとだめだって」

「それとやっぱりストーリーも大事だわね。そのキモは…誰が作るのかだわ」

「やっぱり料理人だろ。それも和食の料理人だわ。至高の和の料理人…いいねえ」

「（一息ついて）あ！…ここ、湯の川温泉街だろ」

「知り合いの有名旅館のモト料理長なんだけどさ」

「引退してから麻雀ばかりやってるんだわ」

「ちょっと頼んでみるわね」、「まず、任せなさい！」



氏の眼鏡の底がきらりと輝いたかと思った次の瞬間、このように怒濤の如く、このたびの「がごめ汁提供計画」が語られていったのであります。（つづく）

老舗酒店の社長こと
（株）イチマス 加藤隆司氏

～ 第10回 「がごめ汁」開発状況（その2） ～

「いや～、味噌汁のこと話したのよ料理長にさ」、「そしたらさ、料理長ノッチャってさ。ってか、もう色んな人に『マラソンで味噌汁つくるから手伝え』って言っちゃってるみたいよ」、「なにせあの人、調理師学校の先生もやってたでしょ？だから調理師学校にも手伝いを頼んできたみたいよ」、「で、もうOKもらってるみたいね」

そのように電話口で軽妙に語る老舗酒店の社長氏（※長いので以後「老舗社長」という）の状況説明を聞いた私…焦りました。それになんなの、その料理長の行動力！

実は、函館短期大学付設調理製菓専門学校さんには昨年大会で夕張メロンのカットをお願いしたこともあって…まだ次回のメロンカットもお願いしてない状況で、いきなり横から味噌汁作りも加わったとなると…物事を依頼する順序としてはちょっとマズい。

進みすぎた針を若干戻してアジャストする。そのためには…まず、料理長との直接面談しかないわね…と、老舗社長にご同行いただいて、すぐに料理長のご自宅（※豪邸）を訪問させていただいたのであります。すると…。

「おれね、この前、市から市民貢献賞もらったんだわ（※平成28年度 産業経済功労：料理人として、魚食普及の料理教室やがごめ昆布のレシピを考案することにより、食文化の向上発展に大きく貢献）」

「だからさ、何かしら市に恩返ししたいと思ってたのよ」

「マラソンの味噌汁の話聞いたとき、『ああ、これだ』って思ったね」

「これがうまくなって全国から来る皆に喜んでもらえたら…おれの人生、悔いはないよ」

御年83才、山形出身の至高の料理長が独特の口調でとうとうと語る「おもてなし」への思いに触れたとき、私、素直に感動したのであります。

そして…料理長の事前工作？の甲斐あってか、調理製菓専門学校での打ち合わせは、当初、ボタンの掛け違いなどから緊迫した雰囲気には包まれましたが、次第に専門家同士の前向きな議論を経て進展し、「カップはこれだ！」、「具はやっぱりがごめ昆布だろ！」、「イモとか入れる？走ったあとだから固形物はいれない方がいいんじゃないか？」、「味噌は最高のものを使うべ」、「さあ、次は試作だ！」…と、急激に針が回り出したのであります。（つづく）



至高の料理長こと秋保 栄氏

～ 第11回 「がごめ汁」開発状況（その3） ～

「責任感」。

函館短期大学付設調理製菓専門学校の日本料理研究室長（※以後、長いので「和の匠」という）と初めてお会いしたとき、冒頭のそれをひしひしと感じたのでありました。

これまで幾多の料理人を世に送り出してきた和の匠は、この「マラソン汁」プロジェクトについてペラペラと喋り続ける私の軽い言説に対し、しっかりと聞き耳を立てておられましたが、ある瞬間から私の詰め甘い部分についてのスルドイご指摘を、それも立て続けに発せられたのでありました。

何人に提供するのか。スタッフは何名体制で取り組むのか。現場のスペースは。調理する機材はどのように手配するのか。具材は現場で切るのか事前に学校で切るのか。その配送はどうするのか。コンロは何台用意できるのか。その時期学校は休み期間なので手伝える人数は限られているがどのように対処するのか…。

聞いているうちに、正直に申し上げて「あ、もしかして協力していただけないのか…」と、思ってしまいました。しかしながら、そのようなやりとりを続けているうちに、和の匠の真意が私に伝わってまいりました。

屋外での作業をとまなうことから食の安全管理がまずは第一要件。8千人もの方に確実に提供するのが第二要件。そして、そのうえで「おいしい」と言っていただけることが第三要件。厳しい言葉はすべて和の匠の「責任感」のあらわれなのでした。

そうした厳しい確認行為を経た後に、和の匠から頂戴した「協力したい」のお言葉。私、「あ、これ絶対成功するわ！」と確信したのでありました。

7月2日の函館の空は、たぶん初夏の爽やかな青色が広がっていると思います。

汗をかいた体躯が欲する塩分を、まずは「がごめ汁」で補給してくださいね。多くの関係者が準備し、和の匠が指揮をとり、至高の料理長が監修した逸品ですから（「おもてなし広場」でお待ちしております）。



和の匠こと北川 陸雄氏
（鍋を持つ姿がこれほどキマる人ってなかなかいませんよね…）

～ 第12回 「がごめ汁」開発状況（その4） ～

がごめ汁のお話…なかなか終わり（れ）ません…でも今回こそまとめてみせます！

さて、マラソン後に提供することを考え「あまり固形物が入っていないほうが摂取しやすい」といった議論を経て行き着いたのが、函館ならではの食材「がごめ昆布」。これを細かく刻んだ「きざみ」を投入することで、ラン後の乾いたクチの中には、適度な塩分と昆布の旨みが一気に広がる筈です。どうぞお楽しみに！

一方、ちょっとした悩みもありやで…この「がごめ昆布」、唯一の難点は「高級品」であるということ。皆さんに提供するフードを「買う」ということについて「慣れていない」私ですからしばし悩みましたが、商品パッケージを見ると重要な事実を発見！それは「販売者 函館空港ビルディング株式会社」の文字…そうです。我が函館マラソンのブロンズスポンサー社様がその「高級品」を販売してるんですね…このあとの「工作」内容をご想像にお任せいたします…結論としてはご想像のとおりです。



「工作」対象の函館空港ビルディング鈴木部長（写真は「とろろ」ですが、試食会を経てより高級な「きざみ」に変更しました…部長、よろしくです!）

そしてまた嬉しいことが…このたびがごめ汁の制作陣に、函館を代表するシティホテルの総料理長氏と同ホテルのスタッフが加わっていただけることとなりました。どうして？このクラスの重鎮が？我らがつくるのは、みそ汁なんですよ？

実は総料理長氏、平成28年函館市市民貢献賞（産業経済功労：日本中国料理協会函館支部長などとして、食の向上および後進の育成に大きく貢献）を受賞された中華の達人なのであり、老舗料理長とはガゴメ昆布の普及活動を通じた旧知の間柄とのこと。たぶん老舗料理長から「キミもマラソンを手伝いたまえ」の一言があったのでしょうか。中華の達人氏は二つ返事をする以外の選択肢はなかったものと拝察いたします。

後日、総料理長氏にお願いにあがった際のこと。「函館が元気になるのはいいこと」、「うちらホテルだし尚更マラソンは応援しないと」、「料理を通じてできることなら喜んで手伝いますよ！」という有難いお言葉をいただいたのであります。

でも総料理長！皆さんにお願いするのは、たぶんカップを並べるとか、とろろを盛り付けるとか、その中に汁を入れるとか配るとか、そういうことですからね念のため！

…ということで函館の旦那衆が真剣に、そして楽しく準備している「がごめ汁」のお話、今回で結びとなります…当日をお楽しみに！



中華の達人こと函館国際ホテル
木村 史能 総料理長

～ 第13回 FBキャンペーンの反応を踏まえ ～

4月ですね。マラソン陣営は人事異動なし！目下全力で準備に勤しんでいますよ…ふふ。

さて、覚えていらっしゃるでしょうか？新年早々にスタートさせた「2017 エントリー無料権プレゼント Facebook キャンペーン」。皆様からお寄せいただいたアツイメッセージには、スタッフ一同、心を打たれました。ただ、若干気になることもあって…。

昨年大会を経験された多くの皆様からは「フードが楽しみ」、「メロンも海鮮丼もラーメンも旨かった～」という喜びのコメントをいただきましたが、一方で「去年は完走を目指したけど、今年はエイド完食するぞ！」、「走りはそっちのけでエイドを楽しむぞ」といった食を満喫系のコメントが本当に多く…ということは…17大会では私どもが設定した「食べる・食べない」の歩掛かりが、想定以上に「食べる」側へと傾いてしまうのではないかと感じております。









しかし、我々にはフードの満足度を必ずや高めるぞ！という強い思いがあります。「おもてなし広場」での振る舞いは、全員提供を視野に入れ、千から2千食レベルの品を5種類前後用意し、「食べられなかった」という嘆きの声をゼロにしたいと考えております（※何しろゼッケンにスタンプを押して一人1品を徹底いたしますので…ふふ）。

エイドステーションでのフード提供にあたって、皆さんの食へのアツイ眼差しをひしひしと感じておりますので、提供者の皆様には抜本的な増量をお願いしております。ただし「増量したら今度は、大量に余った」という事態は避けなくてはなりません。ランナーに確実にフードを提供しつつ、そのうえで食べ物を粗末にしない方策（今回は修道院からのお恵みもあるのですから尚更です）を、ご提供先の皆様と協議してまいります。

また、「くだもの社長」から頂くフルーツの数々うち、とりわけタ張メロンに対する多くの反応をみるにつけ、これは皆さんのクチに確実に入るようマネジメントしなければ…という思いを強くしております。そして「漁り火がごめ丼」と「はこだて冷やし塩ラーメン」については、前回の倍規模

でご用意いただける段取りとなっておりますが、果たしてそれで足りるのか？不測の事態にも対応できるよう、現場で自在に提供数をコントロールできるような仕組みも含め、関係先の皆様と方策を練ってまいります。

（つづく）

	 函館マラソンに参加します！ 昨年悪天候の中、完走したことが自信になりました。今年は曇色と食べ損ねた海鮮丼とラーメンを楽しみたいです。
	 函館マラソンに参加します。 去年は心身苦しい中、緑の島の美味メロンで復活、時間内ぎりぎりで完走完歩できました！今年は、海鮮丼を戴く事と、歩かずに完走が目標です！
	 ka 函館マラソンに参加します。 去年4時間以内に滑り込む為に泣く泣く食べられなかった海鮮丼など今年はずっと食べられるように頑張ります。
	 これこれ、これです。がごめ昆布がご飯に炊き込んであって、上にはこんなに乗っかってる。タイムよりこちら重視になりました。おいしかったー。

函館マラソン Facebook に寄せられたフード関係コメント（抜粋）

～ 第14回 メロン（※フル：第10エイド、ハーフ：ゴール後に提供）～

本題に入る前に…皆様、本当に有難うございました。何がって？もちろんこのたびの定員達成です。この間、禁酒、禁スロ？など参加者増には何の役にも立たないことを勝手に続けながら日々念じてきた者としては感慨深いものがある…ま、どうでもいいですね。

さあ本題です。くだもの社長とメロン王子とのやりとりについては本稿の第5回でお知らせしたとおりです。メロン王子が発した奇跡の一言で、くだもの社長からの今年のメロン協賛がめでたく決まったのですが…実はもうお一方、くだもの社長の背中をポンと押された方がいらっしゃいます。

それは昨年11月のこと…電話口からは氏の少し興奮された様子がヒシヒシと伝わってまいりました。「昨日さ、経営者向けの講演会に参加したんだけど、講師の〇〇社（※函館の超有名企業…もちろんそのような企業ですから函館マラソンをスポンサードいただいております…ふふ）のM社長のお話を聞いて心を打たれたのよ。『我々が住む函館は、魅力的な市町村ランキングで3年連続日本一になるような街。だからそれを誇りに思うのと同時に、1位であり続けるために地元企業の一社一社が、函館のために何が出来るのかを考える事が大切だ』ってお話でさ、本当に感激したよ」と。

そして、「おれもこれからはマチのことを考えるわ。ねえマラソン課長」と。

また、昨年大会でメロンを提供したが若干足りないという現象が発生したことで、逆に多くのランナーを「失望させてしまったのではないか？」という後悔の念がなかなか消えないこと、そのようなことがないように「17大会では万全を期したい」ということ、そして、そのために「メロンを増量してもいいだろうか？（夕張を15箱追加し+試しに夕張と並ぶおいしさと評判のふらのメロンも10箱用意するから!）」と。

いつもふざけた文体でいじっておりますが、それは函館マラソンが生み出した希有なキャラクター「くだもの社長」への敬愛のなせる業…皆、本当に感謝しております。

■ 16大会 ご提供いただいた内容

- ・夕張メロン白箱※40箱（計200個）
※お中元ギフトに重用される白箱をご提供いただきました
- ・フィリピンバナナ「スマフル完熟王」
- ・余市産ミニトマト



←これが夕張メロンの「白箱」。あらためて写真をまじまじと見たら…なんと糖度11%以上の優ランク品でした！…社長！何もいわずこんなに良い品を提供してくれたんですね…

■ 17大会 ご提供いただく内容

- ・夕張メロン白箱55箱+ふらのメロン10箱（計325個）**※6割増**
- ・バナナとミニトマトも継続



「くだもの社長」ことカネキ中川青果代表取締役
中川隆司氏

～ 第15回 漁り火がごめ丼（※フル：第10エイドで提供） ～

16大会を終えた直後の昨年7月初旬、函館マラソンの第10エイド・緑の島で「漁り火がごめ丼」をご提供いただいた超有名市場へのお礼に伺った際のこと。

「今回7百食用意したけど、あと3百あれば全員にあたったな。だから次は1千食だわ」、「リスク管理も含めると、倍の1千4百食あってもいい」という極めて嬉しい反応があり、我々一同、歓喜した記憶があります。

で、年があけて今年の2月。そろそろ17大会の具体的な協議に入らなきゃということ、件の超有名市場を訪ねたのですが…なんだか雰囲気がちよっと違う。とりわけ去年、現場で大活躍いただいたアツい副理事長が何やら物憂げです。

あれ？これはもしかして今年は協力いただけないってことだろうか？でもそれはマズい。函館マラソンのフードの代表格のひとつ「漁り火がごめ丼」がすっぽりと抜け落ちてしまう状況となれば、ランナーの皆様になんと説明すればよいのか…私も打ち合わせに同行した同僚たちも皆、そのとき背筋に寒いものを感じたのであります。

副理事長からは「なんもだ心配するな！」、「数も増やすんだよな、わがってるって」という有難きお言葉を頂戴し、少し安心したのですが…でもどこか寂しげなその表情が気になります。それにいつもの名セリフ「まがせれ！」が聞こえてきません。

原因は…程なくしてわかりました。昨年、あの大風が吹き荒れる現場を一手に指揮していただいた副理事長ですが、当日は息子さん（中学生）も加勢し、その彼には想像以上の大活躍（※隣でラーメンを手伝っていたウチのカミさんと娘も「若い人が無駄グチひとつなく、一生懸命手伝っていた」と証言）をいただいたのでありますが、なんと今回は「去年大変だったからもう手伝いたくないよ～」と言われてしまったとか。

貴重な戦力として今年もご子息の活躍を期待するとともに、親子での共同作業を楽しみにされていたのでしょよね。お気持ち、察するに余りあります。

ただ、ピンチのあとには必ずやチャンスあり（人生そんなもんですよね皆さん！）。その後、副理事長のご様子を裏ルートで確認したところ、息子さんから「今年もヤル！」の返事があり、さらに娘さん（※双子の兄妹）からも「今年是个数を増やすんでしょ？いいわよ私も手伝うわよ！」と新たに参戦していただけることになってお喜びのご様子とのこと…皆さん、今年も函館の魅力凝縮した海鮮丼「漁り火がごめ丼」をお楽しみに！



「漁り火がごめ丼」を手に微笑む函館朝市協同組合連合会の船岡 聡 副理事長

～ 第16回 はこだて冷やし塩ラーメン（※フル：第10エイドで提供） ～

函館を代表する人気ラーメン店（らあめん無限+TEPPEN+らあめんめんきち）と老舗製麺会社 出口製麺がタッグを組んで創作された昨年の「はこだて冷やし塩ラーメン（ジュレタイプ）」。当日は緑の島第10エイドで700食が提供されたところ、今までにない「新鮮な感動を覚えた」と評判になりました。

ただ、あと僅かのところで品切れとなり、作り手もランナーも悲しい思いをしたのですが…実はその経験を踏まえ、既に「抜本策」が検討されておりました。さすがです！

このラーメンのつくり方。ちょっとおさらいしますと、

- ①ジュレ状にした塩ラーメンのスープをカップの底に敷く
- ②その上に特製の麺をのせる
- ③さらにジュレをのせる（麺をサンドイッチ状に包む）
- ④その上に、凍らせた塩ラーメンのスープを掻き出したシャーベットをトッピングする
- ⑤仕上げにレモンのスライスとハーブをのせる…
- ⑥できあがったラーメンを箱詰めして保冷車で保管～移送…と、極めて手の込んだ「作品」なのであります。これを作るために朝早くから関係する皆さんが集い、まとまった個数をつくりあげていただいたのです。



「顔こわ店主さん」こと
マラソンラーメン研究会 代表
らあめん無限店主 木村恵輔氏

その「まとまった個数」を16大会の3倍規模＝2千個とする場合、顔こわ店主さん（※バックナンバー参照）は「大丈夫、なんぼでも作れるから」と太鼓判を押されますが、上記の作業工程からして、たぶん前日からの徹夜が必至となりましょう。

そこで編み出されたのが「現地製造」。ジュレタイプの個数は、その製造に手数はかかるものの昨年以上の1千個をご用意いただけるとのこと。そして、それを越えた分については「はこだて塩ラーメンを提供する！」ということになりました。

札幌の味噌、旭川の醤油と並び北海道三大ラーメンと称される「はこだて塩ラーメン（※もちろんひとくちサイズですよ）」を、しかも函館を代表するラーメン店の店主さんたちがコラボして提供するという事ですから、ちょっとこれ、函館マラソンに参加しなければ味わえない貴重な体験となりますね。そして「現場でランナーの通過具合を確認しながら作りますので材料も無駄になりませんよ～」とのこと。素晴らしいですね。

こうなれば我々も環境整備に努めなければ…今回は仮設テントではなくバシッとプレハブを置くのはもちろん、ガス台や給排水などラーメン作りの場を整えます。フルマラソンご参加の皆様、第10エイドのラーメンをお楽しみに！

～ 第17回 フルマラソンコース「ともえ大橋」対策 ～

昨年大会で多くの方に「難関だ」、「大変だった」と言わしめた「ともえ大橋」ですが、これまでこの場を通じて何度もコース造成の基本的な考え方をお伝えしてまいりましたとおり、函館でフルマラソンコースを造成するうえでは、現状、「ともえ大橋」の活用は不可欠です。従いましてフルの部にご参加いただく皆様には、もちろん今年もあの難関が待ち受けております…要するに「頑張りましょう！」ということです。

とはいえ、あの橋が難関になるのか、それとも函館山などの豊かな緑と函館港の青という絶妙な景観をお楽しみいただきながら爽快に走破できる美しきコースになるのか…それはもう当日の天候に大きく左右される事項ですよ。

当日の天候については我々が何とかできる範疇を超えておりますが、一方で昨年、多くの方が感じたであろうともえ大橋のキツさについては、何かしらの緩和策が展開できそうです。その対策とは…ズバリ「補給」。昨年大会のアンケート結果をみると、第10エイド「緑の島」でのバラエティに富んだフードはかなりの人気を博した一方で、バナナ・ミニトマト・夕張メロン・チーズオムレット・カステラ饅頭 函館散歩・はこだて冷やし塩ラーメン、そしていさり火ガゴメ丼をその場で一気に提供したことから、「1箇所に集中しすぎ」、「そんなに食べられない」という声もいただきました。

そこで今年は、延長約2キロ、高低差約15mの「ともえ大橋」対策として、その入口部に位置する第8エイド（約31.4km地点）を重要な補給ポイントと位置づけ、

- ・チーズオムレット（第10エイドから転換、ペシエ・ミニョン 提供）
- ・カステラ饅頭 函館散歩（第10エイドから転換、千秋庵総本家 提供）
- ・コカ・コーラ（昨年からの継続、北海道コカ・コーラボトリング 提供）
- ・塩（新規、事務局手配）

といったエネルギーチャージに最適な品々を用意して皆様をお迎えいたします！また、昨年はお菓子とコカ・コーラの数量が若干足りず、それらを楽しみにしていたランナーの方々に悲しい思いをさせていただきましたが、今年は各企業から提供数を倍増していただきましたので大丈夫！

ということでフルご参加の皆さん、今回はともえ大橋対策として、皆でエネルギー源をたくさん用意してお待ちしておりますので…お楽しみに！



「当日は保冷車にチーズオムレットを満載させて駆けつけます！」
(有)ペシエ・ミニョン
松浦 績 本部長



「コカ・コーラでココロとカラダをリフレッシュ！」北海道コカ・コーラボトリング(株)
松村 忠司 課長



「カステラ饅頭 函館散歩さ、これ、ウチのイチオシなのよね！」
(株)千秋庵総本家
松田 俊司 社長

～ 第18回 「おもてなしフェスタ」について（第1回） ～

ランナーの皆様のスタート・フィニッシュ地点となる千代台公園内で開催する「おもてなしフェスタ」の概要をお知らせいたします！今年は、マラソン前日の参加記念金の引き渡しとあわせて土曜日も出店を営業いたしますので、道南の食の数々を楽しんでいただきますね（ただし出店は有料ですよ念のため。土曜日：13時～18時まで営業・予定、日曜日：10時半～15時半まで営業・予定）。

また、マラソン後に参加者の皆様を対象として無料で振る舞わせていただく品々についてですが、今年は品切れが生じないよう準備を進めております（複数品目の中から各自1品を選択 ※ゼッケンにスタンプを押印して整理します）。

ただし、

- ・各品目の提供数については限りがあります。ご希望に添えない場合もあり得ることをあらかじめご了承ください（※その場合、他の品目を選択していただきます）
- ・ランのあと疲れたカラダで並んでいたというのに、直前で「品切れです」といった殺生な場面はできるだけつくりたくないよう現場の案内などには万全を尽くしますが、それでもご不満を抱かれる場面もあろうかと思えます。そのような場合は、このマラソン課長に免じてお許しください

以上についてご理解をいただいたうえで、さあ、今から何を選択するのか、以下の図面をご参照いただき作戦を立ててみてはいかがでしょうか？

気になる品目ですが、ランナーに対し

- ・全員提供するもの：がごめ汁（みそ汁）、函館牛乳
 - ・択一提供するもの：イカめし、ジャガバター、大福など（詳細は次回以降に！）
- となっておりますので、当日はお間違えのないようよろしくお願いいたします。



～ 第19回 「おもてなしフェスタ」について（第2回） ～

それでは「おもてなしフェスタ」での振る舞いの品々を順に紹介させていただきますね。

- イカめし：私、大きな勘違いをしております…おもてなし広場で提供する「イカめし」は、パック詰めされた製品を現場で湯煎してお出ししているものと思っておりましたら…実は半調理済のイカめしを現場にて特製タレで30分煮込んで作っているとのこと…つまり出来たて！だから昨年は、現場で「おいしい」の評判がすぐに広まり、ある種、奪い合いの様相を呈したのでありましょう。今年ももちろんおいしいイカめしを提供いただけることになっております。



「当日はウチの社長、イカめし手伝わなくてマラソンに出るんですよw」と教えてくれた(株)プロテック 総務部 平田 優 次長

ただし提供個数ですが…先の「17大会準備状況パート1第17回」で懸念していた原材料調達の問題や現場調理の段取りなどから「予定していた2千尾が1千尾程度になってしまう(※函館マラソンゴールドスポンサーの新社長氏談)」とのこと。

- お持ち帰り用・道南の名産「ふっくりんこ」白米300g：(上記の新社長氏の発言がつづく)「自分としても残念でさ。足りない千人分を何とかリカバリーしたいんだけど、何かアイデアない？」／「え？これまでも運営面で様々ご教授いただいている新潟シティマラソンさんではゴール後に『ジャンボおにぎり』と『パックごはん』を選択制で振る舞ってるって？」／「それで決定！」／「うちのマラソンでもお土産用のお米を出そうよ！」／「んで、そのコメの提供、オレに任せてくれないか？」



「当日は所用があつてイカめしづくりには参加できませんが…どうぞお米ともども北の幸をご賞味くださいね」(株)プロテック 富樫 孝樹 社長

- 大人のジャンボおにぎり：これはもう、上記のとおり新潟シティマラソンさんをパクリ…いえいえいえ参照させていただき「ジャンボおにぎり」(※通常のおにぎりは重さ100g程度、ジャンボおにぎりは140gを予定)を提供いたします。何しろ現場で素早くお渡しできる品として、おにぎりは最適ですからね。気になる具は…「大人の」とネーミングしておりますとお礼、辛味仕立の「がごめと山わさびの醤油漬」です。これ本当に…ご飯に乗せたら箸が止まりません。使用するお米はもちろんホクレンさんの「ふっくりんこ」です。ふっくらとしたやわらかな食感をお楽しみください。



おにぎりの具は…函館空港ビルディング社(スポンサー企業)からご提供いただきました！函館空港で売ってます

～ 第20回 「おもてなしフェスタ」について（第3回） ～

今回でこの散文、第20回目を迎えました。これまで書き連ねてきたパターンからして1シリーズで全20回仕立てとなるのだろうと、これは私自身もそのように考えていたのでありますが、何しろ今年はいろいろなことがあって…そして書きたいことはどんどん集まってきて…ということで自らが勝手に決めた「全20回」という縛りを早々に捨て去って、さあどンドン書いていきますからね！

（ということで…おもてなし広場での振る舞い品について、引き続き紹介します）

■ じゃがバター：原材料不足といえば「いかメシ」もそうですが、

じゃが芋だって…そうですね？スーパーやコンビニの店頭からポテトチップが消えつつある状況です。もしかしてじゃがバターも危ういのか？と心配になった私、じゃがバター職人のところに駆けつけると…「なんもさ去年からイモは手配してキープしてるから大丈夫さ」、「何食分？約束したでしょ去年の倍、ちゃんと用意してるから！」とのこと…ホッ。じゃがバター職人、そしてボランティアの皆さん、今年もお世話になります、よろしく願いいたします！



「函館スタイルの塩辛をのせたじゃがバターですよ～！」じゃがバター職人こと函館農水産物ブランド推進協議会/函館市農林水産部 櫻井 貴之 課長

■ 大福：北海道米販売拡大委員会様のご厚意をいただき、ハーフ時代におなじみだった「お餅」がこのたび「大福」となって復活します。道南は八雲町で生産された「風の子もち」というもち米を使用したこの大福は、お餅自体のきめが細かさとしり、さらにコシが自慢。そして驚いたのがその個数…なんと2千個ご提供いただけるとのこと。本当にありがとうございます。願えば叶う（願わなきや叶わない）！



「大会当日は八雲町産『風の子もち』で作った大福を是非、ご賞味ください」
八雲町もち米生産部会 永井和広 部会長

■ 函館牛乳／がごめ汁：お馴染みの「函館牛乳」ですが、去年は天候不良もあって振る舞いのため用意した牛乳が余ってしまったとのこと。今年はどうなるのでしょうか？そして同じブース内で販売していたアイスクリームの売り上げ…あの天気だったもの少なかったですね？いろいろなことをお願いしている私としては気がかりだったのでありました。カラダの大きな課長、社内での立場がなかったのではないのでしょうか？あと「がごめ汁」…これは本稿第9～12回で詳しく紹介したとおりです。お楽しみに！



「市のイベントに出て儲けようなんざ思っていないのよ。喜んでもらえればそれで十分」
函館酪農公社 駒井 貞二 課長

～ 第21回 「おもてなしフェスタ」攻略法 ～

これまで「おもてなしフェスタ」のアウトラインをお知らせしてまいりましたが…皆さんちょっと当日の会場をイメージしていただきますね。少しだけご協力ください。

(状況設定)

- ・お目当ての品の前には既に多くの行列ができています
- ・その最後尾には「●●時提供分・最後尾(次回提供は●●時頃となります)」という立て札を持参しているスタッフが立っています
- ・忘れてならないのは(個人差はあると思われませんが)、皆さんは長丁場を走ったあとだということ。心身ともに消耗している方もおられることでしょう

(状況予測)

行列を余儀なくされる品目は…ズバリ「いかメシ」と「じゃがバター」でしょう(これらは現場で作りながら段階的に提供していくため、一回あたりの提供数には限りがあるほか、調理から提供までのインターバルも、「いかメシ」で30分程度、「じゃがバター」で1時間程度必要となるからです)。

(だからこそ、3つの「攻略法」)

皆さんの満足度が少しでも高まるのならばと、私、ない知恵を絞って「おもてなし広場」攻略に向けた3つのパターンを考えてみましたので、ここで紹介させていただきますね。

【パターン1】力が有り余っていて、それを食べられるんなら30分や1時間ぐらいの行列なんざなんともないわという方: 択一品の中から「いかメシ」か「じゃがバター」を選択のうえ一定時間列に並んでゲットしていただき、そのうえで全員提供の「がごめ汁」や「函館牛乳」をゲットする

【パターン2】ヘトヘトだわ私。だから並んでまで待つてられないわよという方: 択一品の中から「おにぎり」か「大福」を選択のうえゲットしていただき、そのあとで全員提供の「がごめ汁」や「函館牛乳」をゲットする

【パターン3】とにかく時間がないわ!という方: これはズバリお持ち帰り用の「お米」でしょう。何しろ食べる時間も不要な訳ですから、ふふ。でもまあ、「がごめ汁」と「函館牛乳」は、どうぞご賞味くださいね

何れにしてもこの「おもてなしフェスタ」、これまでご紹介させていただきましたとおり、ランナーの皆さんにとって思い出に残るような場とするため、多くのスポンサー企業から物心両面のご協力をいただき準備に取り組んでまいりました。だから皆さん…どうぞランとあわせ、当日はこの場も楽しんでいってくださいね。お待ちしております!

～ 第22回 ポスター柄「丸缶羊かん」の土産商品化について（最終報告）～

この書き物の第6回で中間報告していた事柄について、最終報告させていただきます。

私、実はGWの合間に江差町に行ってきたのであります。どうしてって？そりゃもちろん今年も第7エイドステーションにおいて絶大なご協力をいただく五勝手屋本舗さんに「今年もお願いします」のご挨拶を…という名目で強引にアポをいただき、本題たる土産商品化を迫るためです。何しろそれを多くのランナーから託されておりますので。

羊かん専務「いやあたった今、函館から戻ってきたところなんですよ」、「実は今朝、家内が出産しまして。二人目の娘でしたふふふ」

事務局「え！」、「なんとそれはおめでたいこと！（よし、専務喜んでるし今がチャンスだ！）」、「ところでご検討をお願いしていた函館マラソンのポスター柄の羊かんの商品化ですが、どうですかね？」、「いいですよ？」、「何しろ本当に多くの方が『土産に欲しい』と望んでますからね」、「(資料をもとに) フェイスブックのコメントを見ても…ね…こんな感じで皆さん期待してますよ」、「お願いします」、「ね！」、「ねっ！」

羊かん専務「…」、「ところでネットでの書き込みを色々みたら、羊かんを1本まるごと食べられるってことがランナーにはかなりインパクトがあったみたいですね函館マラソン」、「だからおもしろいので、ウチらもどんどんワル乗りして…いろんなことにチャレンジしていきますからね」、「何年かしたら『函館マラソン = あ～、あの羊かんの…』と言われるぐらいになるよう、末永く協力していきますからね！」

事務局「(キター！) 本当にありがとうございます」、「ではよろしいですね土産商品化」

<<<<この瞬間の状況描写：羊かん専務・満面の笑顔、事務局・ハナ息荒く>>>>

羊かん専務「…やっぱり商売はダメですよ～」、「ウチら函館マラソンを応援したいだけなんですよ」、「それに楽しみながらやってますので」、「今年も色んなことを…ね」、

事務局「…(しばしうなだれるの図)」、「あれ？ところで去年の丸缶羊かんの数、4千本でしたよね」、「もしかして今年は7千本にしてくれるんですか？」

羊かん専務「あれ？バレましたね…」、「実は現場で『足りない』とか言われてしまうのは悲しいから、去年も7千本持っていったんですよ」、「今年も何か隠し球を用意しますので、皆さんに楽しんでいただきたいと思いますね！」

ということで商品化、結果は…ゴメンナサイです。

今年は、おもてなしフェスタ会場内売店でエイド関係ご協賛企業の関連商品を販売いたします。「通常柄」の丸缶羊かんや千秋庵総本家のカステラ饅頭・函館散歩、ガゴメ昆布関連商品などをご用意しておりますので、ご希望の方はどうぞお買い求めください！



2017 函館マラソンオリジナル丸缶羊かんを手
にTV撮影に臨む
(株)五勝手屋本舗
小笠原 敏文 専務

～ 第23回 平塚先生語録（その1） ～

5月のGW最後の土日のこと。世界で約60人、日本には数人しか居ない「国際陸連A級計測検定員」たる日本陸上競技連盟施設用器具委員長の平塚和則氏を今年もお招きし、函館マラソンのコースを再計測していただきました。「少しでも走りやすく」を追求するため、今大会では関係機関との協議を経て、昨年は3車線をコースとして利用していた国道278号（漁火通）の全線（4車線）利用が叶ったことから、この改変にともなうコース修正分の実測調査をお願いしたのであります。先生、相変わらずお元気です。そしてまた今回もあの江戸弁が炸裂しておりました。

ところで皆さんの人生において、世界に60人しかいない特別な資格を持った方とお話する機会なんて…あまりないですよ？…やっぱり。ということで折角ですから、世の中にあまたあるマラソンコースを自ら走破し、計測してきた平塚先生からみた函館マラソンのコース評などについて、（私、先生に密着し、こっそりメモっておきましたので）この場で紹介させていただきますね。

◆平塚先生語録（コースについて）◆

ここの舗装、直してるね／ここも直してるね、ヤルね～！／この路面電車のレールんトコもさ、去年はガタガタだったのにさ、なんだかゴムまで挟んでるよ。いいんじゃないの！／でもね昔はね、マラソンのコースだって砂利道とかだったんだからね／だからコースに凸凹があるとか水たまりがあるとか最近じゃみんな嫌がるけどさ、オレからすりゃ何が問題なんだよ？って感じなんだけどね／だってそうだろ？普段クルマがビューって走ってる普通の道路を使ってるんだよ、どこのマラソンもさ／えっ？途中に石畳があるから走りにくいって？誰だいそんなこと言ってるの／ほんじゃロンドンマラソンとかどうすりゃいいんだよってねw／でもいいよね～このコース。橋があって確かに大変っちゃ～大変なだけけどさ、こんなに景色がいいトコを走れるんだぜ／このコースはさ、ズバリ走る函館観光だよ／なんも文句ないっての！ねえ課長（つづく）



コース計測前の調査状況（※平塚先生：右から2番目）

～ 第24回 平塚先生語録（その2） ～

マラソンコースの「公認」を得るための検定調査の手法については、昨年の「2016 函館マラソン準備状況 第8回」<http://hakodate-marathon.jp/manager/wp-content/themes/hakodate/common/img/history/history08.pdf>に詳述したとおりですが…要するにかなりシビアです。そのような検定調査をこれまで数多くご担当された「マラソンを知り尽くした男」平塚先生の語録、パート2です。

◆平塚先生語録（大会PRについて）◆

今年は函館マラソン、7月開催になったんだろ？／あ～、これからも7月アタマで固定するんだ／あれ、その時期のフルの大会ってあったっけ？ないよね…？／もうさ、函館は7月でも涼しいとか言ってないでさ、函館マラソンは夏のフルマラソンだよって打ち出してさ、ガンガンPRすりゃいいんだよ他にないんだからさ／夏のマラソンをみんな敬遠してさ、ほんで厳しいところで経験積まないからオリンピックとかで日本は勝てなくなっただぜ

◆平塚先生語録（BIGニュースです!!!）◆

～実測調査終了後のこと～

先生：この経路図とか色んな図面に英訳つけてくれない？

事務局：えっ／はい出来ますが／でもどうして？

先生：あのさ課長、国際陸連の公認受けたくないの？

事務局：えっ（軽くパニック）

先生：IAAF、アイ・エイ・エイ・エフの公認だよ？受けたくないの？

事務局：えっ／そりゃまあ（でもちょっと何を仰ってるのか意味がわかりません…）

先生：そりゃそうさ課長／国際陸連の公認受ければこんなリストに載ってさ（※陸上競技ルールブック）／他とはレベルの違う大会になるんだよ／（ルールブックのリストを指差して）ほら、ここにマークがついてるだろ、こんなのに函館マラソン、載りたいよね？／載りたいだろ？／これに載れば外国人アスリートも見てさ、どんどん国際化されてさ、大会自体のステータスもどんどん上がっていくわけよ

事務局：でも先生、どうやれば？

先生：そんなの心配いらんっての／このコース測ってるのオレだよ！／オレがいいって言うてるんだから

事務局：ははっ（皆でひれ伏す）



平塚先生、コース計測後の集計状況を見守るの図

2回にわたってお送りした平塚先生語録、楽しんでいただけましたでしょうか。最後のBIGニュースには我々、本当に驚いたのであります。ということで、今回、皆さんが走破される函館マラソンのコースは、フル・ハーフともにIAAF公認コースです。

～ 第25回 ゴール後の移動について ～

実行委員会では、昨年大会の実施を通じて明らかになった問題点を改善するため、今大会では様々な対策を展開してまいります。例えば…km表示板など各種の強風対策をはじめ混乱防止に向けた10分間時差式スタートの導入／アナウンスや音響設備の充実など開始式の改善／沿道応援団の充実（3倍増）／コース幅の改善／5kmラップの完全導入／仮設トイレの大幅な増設／救護体制の再構築（テントをやめてバスを活用※風対策です）／エイドステーションでのフード提供「量」の拡大／荷物預かり所の雨対策や荷物袋の大型化／おもてなしイベントにおける振る舞いの全員提供…などです。

しかしながら抜本策の構築までには至らなかった案件もあります。それは、千代台陸上競技場からの、とりわけゴール後の移動にかかわる混雑緩和です。

ここで昨年大会を振り返ってみたいと思います。函館マラソンのスタート・フィニッシュ地点がある千代台公園内には、10時半頃からランナーが続々とゴールしてきます。その後、ランナーの皆さんは記録証を手にし、おもてなしイベントで振る舞いの品を楽しんだり着替えをした後、帰路へと向かわれるのですが…ここで問題が。市電（路面電車）が13時頃まで運行していないのです。理由は…13時頃までフルのランナーがコース上（昭和橋）の路面電車の軌道敷を横切る形で激走しているからです。

大量輸送機関たる路面電車が運行していないことで、昨年は続々帰路に就くハーフのランナーが千代台電停周辺や五稜郭地区のバス停に複層的に集中、皆様には大きな混乱をもたらしたのであります。あらためてお詫び申し上げます。

このような状況を踏まえ、今年は「抜本策」として、函館マラソンの、あのコースだからこそ出来る斬新な手法での解決を試みたのでありますが…資料不足と私の説明力量不足により今回は採用が見送られたのであります。皆様本当に申し訳ありません。今大会の状況を確実に記録保存するなどして資料を整え、必ずや来年、その「斬新な手法」が導入できるよう努めてまいります。

ただし、今「できる」対策は地道に導入してまいります。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①帰りの交通アクセスなどを的確にお知らせする「案内所」の新設②電車代替の無料バスの運行拡充（※函館駅方面）③駅前地区までの「徒歩マップ」の配布（千代台から函館駅前まで約2.5キロです）④JRA函館競馬場による 千代台→競馬場 無料シャトルバスの運行（※私は「Kバス」と命名したのですが…採用されませんでした。どうぞ函館競馬もお楽しみください） |
|--|

…うーむ、筆だけじゃ伝わらないですよ…今回は図面を添付しますね。

陸上競技場周辺図



市電・バスの運行概要（帰路）

凡例

← 函館バス（通常便・**有料**）

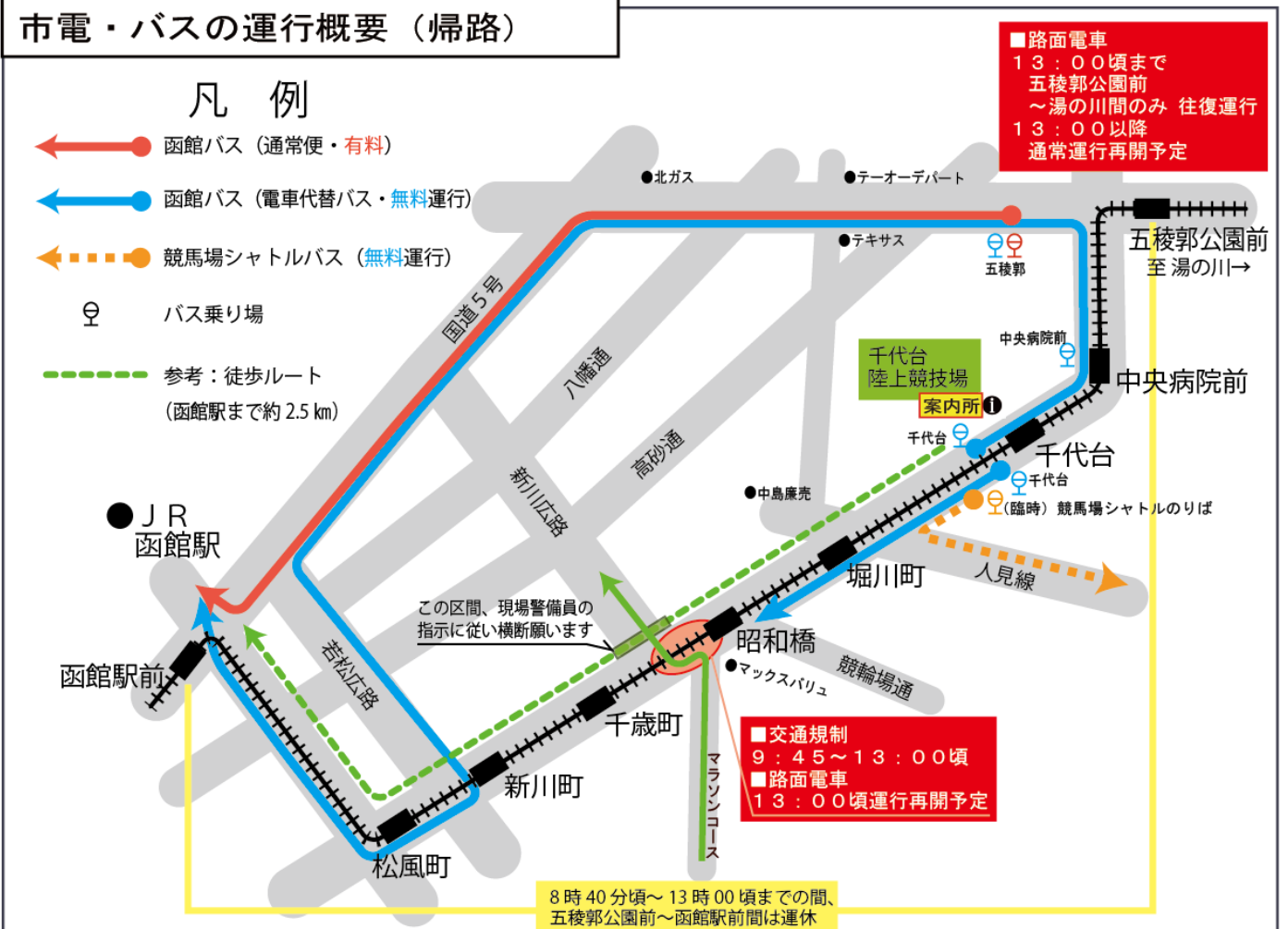
← 函館バス（電車代替バス・**無料**運行）

← 競馬場シャトルバス（**無料**運行）

♀ バス乗り場

--- 参考：徒歩ルート
(函館駅まで約 2.5 km)

■ 路面電車
13:00頃まで
五稜郭公園前
～湯の川間のみ 往復運行
13:00以降
通常運行再開予定



第26回 いよいよ今週末…ですね

皆様、いよいよ今週末は2017函館マラソンです。昨年の悪天候を踏まえどのような天候になっても対応できるよう、スタッフ一同準備に勤しんでおります。

そうした中、皆さんご注目の「メロン」や「冷やし塩ラーメン」の提供内容、またフィニッシュ後の「おもてなしフェスタ」における整理方法などについて、若干の変更がありましたのでお知らせいたします。

まずメロンについて。昨年大会から株式会社中川青果様より全量を「無償提供」いただいているメロンですが、昨年の経験を踏まえ、中川社長からは「今年はより多くのランナーの皆さんに提供したい！」との強いご意志が示されております。具体的には、先この場（第13回）でお知らせしていたとおり抜本的な増量（夕張メロンとフラノメロン 計325個）をいただいたのですが、このたびさらに道南地域のブランドメロン「サブリメロン」26個が加わり、これで昨年無償提供いただいた個数200個に対し351個と、実に75%アップ！凄いことになってます。

この提供内容ですが、フルの参加者を対象とした第10エイド・緑の島では、全員に提供できるよう準備を整えております。そこでメロンをカットしていただくのは、函館短期大学付設調理製菓専門学校の吉田教頭先生をはじめとする先生・生徒さんたち総勢8名！！また、昨年、中川社長のサプライズでお配りしたゴール後の HALF 参加者への提供につきましても、今年は概ね HALF の制限時間（3時間）内にフィニッシュされた方に食していただけるよう配分がなされております。ちなみにこのカットは、中川青果のファミリー・従業員の皆様10名がメロン熊のTシャツを着用のうえ担われます。



試しにメロンを切り分ける吉田先生

なお、事務局には「ゴールしてから確実に食べたい」というご意見もいただいておりますが、提供場所については、自らがランナーでもある中川社長曰く「疲れのピークを迎える36キロ地点の緑の島・第10エイドで、おいしい夕張メロンを食べてエネルギー補給してほしい」というのが氏の発意の原点でありますことから、フルの部ご参加の皆様におかれましては、「タイムを狙っているから食べられない」という方には申し訳ありませんが、中川社長のお気持ちをお受け止めいただき、ぜひとも第10エイドでご賞味いただければ幸いに存じます。

（あー、また2ページ目に突入してしまう…）

また、ハーフの部ご参加の皆様への提供につきましても、「フルにだけ提供するというのはダメだ。速い人限定になるけどハーフの人にも食べてもらいたい」というのが中川社長の発意の原点。ですからハーフご参加の皆さん、概ね「3時間」の提供時間に間に合い、多くの方がおいしいメロンを食することができますことをご祈念申し上げます。

次に「はこだて冷やし塩ラーメン」について。皆様には、この場（第16回）で「はこだて冷やし塩ラーメン」の開発状況をお知らせしておりましたが、その後、我々が「マラソンラーメン研究会」において実に2回にわたる研究が重ねられw、このたび皆さんに提供する個数を大幅にアップさせる根本的な秘策がまとまったとの報告を受けました。その内容は以下のとおりです（既にFBでお知らせしておりますが念のため）。



これが「本格的はこだて冷やし塩ラーメン」

- ・今年ジュレタイプではなく、鶏ガラスープの本格的な「冷たい」塩ラーメンを提供
- ・本格的チャーシュー、本格的ネギ、本格的うずらの卵のほか、皆様おなじみの函館産ガゴメコンブをトッピングして仕上げる！
- ・もちろんサイズはミニサイズ！…ですが今回は前回の約3倍増、2千食を提供すること（※詳しいことは大会プログラムにも記載しておりますのでご一読ください）。

続いて「おもてなしフェスタ」について。この場（第18回～21回）で、振る舞いの運用方法などについてはご案内しておりましたが、振る舞い時の整理手法として、今回からゼッケンにスタンプを押印する方式を採用いたします。なお、そこで使用するゼッケンは、皆様にお配りした2枚のうち、「前面（※ランナーズチップが付着している方です。注意事項なども裏書きされております）」のみを使用いたします。「裏面」にもスタンプ押印欄が印刷されておりますが、そちらは使用できませんので予めご案内申し上げます（※当日、「おもてなしフェスタ」の現場でもその旨お知らせいたします）。フィニッシュ後にランナーズチップを返却していただいたあとも、そのゼッケンを捨てないで、ぜひとも「おもてなしフェスタ」の振る舞いなどをお楽しみくださいね！

また、ご要望が多かった「ゴール後にビールが飲める店情報」について。そうした店のリストがほしい！という皆様からのご要望にお応えするため、函館商工会議所青年部が頑張りました。情報集約したリストを、先ほど函館マラソンのwebサイトの新着情報としてアップしましたので、どうぞご活用ください。

以上、開催直前になって、バタバタしたご案内になってしまって申し訳ありませんが、この場でお知らせしていた事項に関わる変更事項等について、一括ご案内いたします。よろしく願いいたします。

～ 第27回 みなさまへ (vol. 2) ～

昨年の今頃のことですが、「みなさまへ」と題した拙文をこの場に掲載いたしました。

<http://hakodate-marathon.jp/manager/wp-content/themes/hakodate/common/img/history/history20.pdf>

「…函館マラソンのコース沿道にお住まいの方、お勤めの方、所用でコースの近くにおいでの方、そして遠くから函館観光を楽しみにお越しいただいた方など皆々様に」という書き出しで、道路の渋滞など当日起り得る様々な事象に関する「みなさま」へのお詫びと、そのうえで全国各地からおいでいただくランナーの「みなさま」に対するご声援をいただきたい…という誠に勝手なお願いをしていたのであります。

それから一年が経過しておりますが、2017函館マラソンの開催を間近に控えた今日、あらためてその文を読み返すとき、このような心持ちに何ら変わりはないな…と、これもまたあらためて実感した次第です。

マラソンの舞台は、いわゆる「マチ」であればあるほど沿道の応援は盛り上がり、ランナーの皆さんもその分だけ心地よいランが経験できるものと思われまふ。一方で、まちなかで開催されるマラソンは、コースとして使用する幹線道路の距離や交通量、さらには交通規制時間の長さなどが増していくにつれて、とりわけマラソンとの接点が少ない方々にとっては満足度が減少してまいります。

走る人も、走らない人も。ここに住む人も、住まない人も。すべての方にご満足いただくことは不可能ですが、少しでも多くの方にご理解いただけるよう、これはもう丁寧な説明を重ねていくこと、そして感謝の気持ちをお伝えしていくこと、これしか途はありませんね。そのような気持ちで我々実行委員会スタッフ一同、この一年、準備を進めてまいりました。

ですから「ランナーのみなさまへ」。今年は手作りの旗を振る人やメガホンで声援を送る人で沿道が溢れかえるよう（…言い過ぎ？）各種の工作活動を展開いたしました。吹奏楽や踊り、太鼓などオフィシャル応援団の数も3倍規模（難所「ともえ大橋」の出入口にも応援団が！）になりましたので、どうぞご期待くださいね。

そして「走らないみなさまへ」。今年も沖縄をはじめとする47の全都道府県から、また中国や台湾から、さらにタイや米国、オーストラリアなどからもランナーをお迎えますので、昨年以上の元気なご声援をいただきたく、よろしく願いいたします。

今年もまた、誠に勝手なお願いとなりますが、これはもう函館マラソンを続けていくうえで変わるべくもないのでありまして…みなさま何卒よろしく願いいたします。

～ 結びに ～

私ごとで恐縮ですが今回も我が息子、首都圏から多くの友人（ヒゲの生えていない友達？を含め計9名）とともに「函館マラソンに参加するから！」とのこと。就活の状況によっては参加できないことも想定されたのですが…良かったよかった。なお、昨年大会では見事自己ベストを更新し威張っておりましたが、あとで調べるとヒゲの生えていない友達の方が数十分も早くゴールしておりました…やっぱり。

実は私、昨年大会で彼がゴールしたその瞬間に立ち会うことができたのです。彼の人生の「晴れの舞台」、例えば小学校から今日に至るまでの入学式や卒業式などにはこれまで全く立ち会えていなかったこともあって、疲労困憊の呈ながら「オレ、実はかなり頑張ったんだわ」と喜ぶその姿に接したとき、心の奥底から喜びを感じたのでありました。

さて。正直に申し上げますと私、「なぜ辛い思いをするのにマラソンに出るんだろうね？」と、最近まで思っておりました。我が国においてたぶんこのような役職の人間はめったに居ないよな？と自ら吹聴する「フルマラソン担当課長」の私がです。不謹慎ですよ。

ただ、健康管理の側面もあって昨年からは休日毎にロードバイクに乗るようになり、やがて仲間と100kmを超えるロングライドに出かけるようになり、とりわけスキをみては自宅近くの7kmちょっとのヒルクライムにチャレンジし続けるようになったりして感じるのは、いつの間にか「あの看板までのタイムは」、「キロなんぼで走れてる？」、「山頂まであと少し、自己ベストいけるか？」といったことを追求しているよな…ということ。

「あれ、これってもしかしてマラソンランナーとおんなじ気持ち？」ということに、だいぶ遅まきながら気づいた私。要するにランナーの皆さんは辛さの先にある喜びも含め、弛まぬ自己研鑽を投影する「晴れの舞台」としてマラソンを楽しまれているのですよね。

結びに。

「さあ、あとは当日の天気だけだな」というレベルまで、我々、対策と調整を重ねてまいりました。だから皆さん、存分に函館マラソンをお楽しみください。いや、皆さんの「晴れの舞台」をご用意させていただくわけですから、我々、当日の天候でさえも対策済みです…何しろ今回は修道院長に「マラソン日和」をお願いしておりますので。

（文責）

函館マラソン大会実行員会事務局課長

（函館市教育委員会生涯学習部フルマラソン担当課長）

池田敏春